

菅沼合掌造り集落

菅沼は、相倉とともにユネスコ世界遺産に指定された五箇山に2つある合掌造り集落のひとつです。規模は菅沼の方が小さく、伝統的建築物はわずか12棟で、そのうち9棟が独特な建築の茅葺き屋根を持つ合掌造り様式とされています。この集落は庄川が曲がる河岸段丘にあり、緑豊かな山の木々に囲まれています。ブナやミズナラといった多くの種類の樹木が、この地域を雪崩の影響から守るのに役立っています。

ここにある合掌造り家屋のほとんどは、江戸時代（1603～1867年）の終わりと大正時代（1912～1926年）の間に建てられたもので、今でも地元住民の家屋として使われています。一方、最も古い合掌造りの建築物は、現在では五箇山民俗館となっており、来訪者は現地の文化や伝統的な生活様式を学ぶとともに、和紙や絹の製造、さらには火薬の重要な原料で、硝石として知られる塩硝の生産についての奥深い情報を知ることができます。また、合掌造り家屋の中にある「塩硝の館」に立ち寄ることも可能です。